

第 1 1 回市民と議会の意見交換会開催報告

1. 日時

令和 6 年 7 月 2 1 日（日） 午後 2 時 0 0 分 ～ 午後 3 時 3 0 分

2. 場所

バンビオ1番館 2階 市民ギャラリー

3. 説明員

議 長	白 石 多津子		
副議長	福 島 和 人（司会）		
議会運営委員会委員長	富 田 達 也		
議会運営委員会委員	富 岡 浩 史	石 井 啓 子	
	小 原 明 大	田 村 直 義	
	上 村 真 造	八 木 浩	
	川 口 良 江（代理）		

4. 来場者

市民（ 2 8 人）
報道（ 1 人）京都新聞社

5. 出席議員（ 1 0 人）

宮小路 康 文	干 場 志都恵	中 村 亮 太
中 村 歩	大 伴 壘	広 垣 栄 治
進 藤 裕 之	中小路 貴 司	三 木 常 照
住 田 初 恵		

6. その他の出席者

議会事務局（ 6 人）

7. 内容

（1）開会の挨拶 〔白石多津子議長〕

（2）議会改革についての報告 〔富田達也議会運営委員会委員長〕

(3) 議会改革、議会についての参加者からの主なご質問、ご意見（抜粋）

○市民

【議員定数削減について】

調べによると、本市世帯数は3万3,687世帯であり、それを16人で割ると1人あたり2,105世帯となる。2,105世帯というと、民間の会社で営業をされている方1人がカバーできる範囲に相当するが、本市議会議員も1人あたりがカバーする世帯数を増やし、議員数を16に減らせないか。

○**富田達也議会運営委員会委員長** 議員が1人あたりどの程度の人数をカバーできるかはデータとして存在しないと思われるため、各会派によって議員定数の在り方は大きく考えが異なる。また、同じ会派であっても議員それぞれによって思いが違うと考えられるため、議会として定数の増減に対する回答はできかねるが、御意見として承る。

○市民

【A I による音声認識システムについて】

A I による音声認識システムについて、本会議で導入されてから、発言内容を確認し、客観的に聞けるようになった。また、発言の詳細が理解できるようになり、議事録を見るだけとは異なり、理解度が格段に上がった。一方、委員会室では音声認識システムがないため各自で対応しているが、誤変換が多いほか、地名や方言が変換できないなどの課題がある。そこで、委員会などでも音声認識システムを活用してもらえないか。

○**富田達也議会運営委員会委員長** A I による音声の文字化は、令和5年第2回（6月）議会定例会で試験導入して以降、継続して運用している。御指摘のとおり、委員会ではまだ取り組めていないため、今後、議会で検討していきたい。

○市民

【一般質問の一問一答方式の導入について】

現在の一般質問は、議員が質問して市長など理事者が回答し、議員から再質問があれば理事者が再度回答して終了するという流れになっているが、今後、国会で行われているような一問一答方式に変わると聞いた。もし本当に変わるのであれば、いつからになるのか。

○**富田達也議会運営委員会委員長** 一問一答方式の導入に向けて、前期の議会改革特別委員会からの報告書を受けて、現在、議会運営委員会で協議しているところである。答弁と質問が平行線になったときどうするのか、などの検討項目を議論しており、その議論が終わらないことには一問一答方式はできないが、議会運営委員会の正副委員長としては来年の6月議会に試行的に導入できるよう進めたいと考えている。

○**市民**

【**カスタマーハラスメントについて**】

6月定例会の一般質問で、カスタマーハラスメントについての質問をした議員から、議員が、勤務時間内外を問わず、市職員を拘束し政策の実現を迫るのは、パワーハラスメントそのものであり断じて許されるものではない、という旨の発言があった。質問自体はカスタマーハラスメントのことであったが、あえて議員のことに言及されたのは、ただの一般論なのか、それとも長岡京市議会として問題が起こっているからなのか。

○**富田達也議会運営委員会委員長** 今のところ、本市議会で正式にそういった話はない。

○**市民**

【**消費税の5%への時限減税、インボイス制度中止を求める意見書について**】

令和4年6月定例会において、消費税の5%への時限減税、インボイス制度中止を求める意見書を議決され、国会や行政庁宛てに送付されたと聞いている。もし意見書の内容がそのまま実現されると、地方財政は約5.6兆円減額となり、令和6年度の長岡京市の当初予算に当てはめると、約13億円の減収になると試算する。他の自治体でも減収になると考えられるが、減収分の穴埋めなどについて、市議会としてどのように考えているのか。

○**富田達也議会運営委員会委員長** 全員賛成で可決した意見書ではなく、賛否が分かれた案件である。全体の場合よりも、この後のグループトークで、各会派から多様な意見を聞いていただきたいと思います。

○市民

【オンライン視察について】

他の自治体の先進的な事例を視察に行く機会があると思うが、オンラインでの視察などを活用されているか。公共施設を見学するなどの内容であれば実際に足を運ばないと厳しいところがあると思うが、講義形式でお話を聞くだけの様なものであればオンラインでも十分内容を果たせると考える。また、現地に向かう交通費は税金から出るものなので、そういった点も御検討いただけないか。

○**富田達也議会運営委員会委員長** 現在、議会としてオンライン視察はしていないが、先進事例を行っている自治体は、職員などの人材が整っているかどうかという点が大きなところであると考えており、対面でその職員や人材と話すことで、熱意が伝わったり施策実現への考えが分かることがある。また、私個人としてオンライン研修やオンライン視察をたくさん受けているが、それらと比較しても、やはり現地での視察は必要だと感じている。一方で、講義形式だけならば効果が薄いというのは理解するところであり、今後オンライン視察の検討もしていきたい。

(4) グループトーク

(5) 閉会の挨拶 〔福島和人副議長〕